

**CASBEE-建築(新築)2014年版**  
**福岡第2法務総合庁舎**

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.3.0)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.4</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>					<b>3.3</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.6</b>	0.15					3.6
1.1 騒音		3.0	0.40					
1.2 遮音		4.6	0.40					
1 開口部遮音性能	主要諸室の開口部建具はT-2を確保	5.0	0.60	3.0				
2 界壁遮音性能	主要諸室の間仕切壁はDr-40以上を確保	4.0	0.40	3.0				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0				
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0				
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.6</b>	0.35					2.6
2.1 室温制御		2.2	0.50					
1 室温		1.0	0.38	3.0				
2 外皮性能		3.0	0.25	3.0				
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38					
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0				
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0				
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.2</b>	0.25					3.2
3.1 昼光利用		3.4	0.30					
1 昼光率		3.0	0.60	3.0				
2 方位別開口			-	5.0				
3 昼光利用設備	基準階外周部にライトシェルフを設置	4.0	0.40	3.0				
3.2 グレア対策		3.0	0.30					
1 昼光制御		3.0	1.00	3.0				
3.3 照度	全般照明にて750Lxを確保	4.0	0.15	3.0				
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0				
<b>4 空気環境</b>		<b>4.2</b>	0.25					4.2
4.1 発生源対策		5.0	0.50					
1 化学汚染物質	全面的にF☆☆☆☆建材を採用	5.0	1.00	3.0				
2 アスベスト対策			-					
4.2 換気		3.6	0.30					
1 換気量	30m <sup>3</sup> /h人以上を確保	4.0	0.33	3.0				
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0				
3 取り入れ外気への配慮	主要な外気取り入れ口を最上階に集約	4.0	0.33	3.0				
4.3 運用管理		3.0	0.20					
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	0.50					
2 喫煙の制御		3.0	0.50					
<b>Q2 サービス性能</b>			<b>0.30</b>					<b>3.5</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.9</b>	0.40					3.9
1.1 機能性・使いやすさ		4.0	0.40					
1 広さ・収納性	執務スペースは12m <sup>2</sup> /人以上確保	5.0	0.33	3.0				
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	3.0				
3 バリアフリー計画	バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準項目に適合	4.0	0.33					
1.2 心理性・快適性		3.3	0.30					
1 広さ感・景観		3.0	0.33	3.0				
2 リフレッシュスペース		3.0	0.33					
3 内装計画	パース作成による事前検証、内装コンセプト構築	4.0	0.33					
1.3 維持管理		4.5	0.30					
1 維持管理に配慮した設計	内外装に防汚性の高い、清掃の容易な材料を採用	4.0	0.50					
2 維持管理用機能の確保	各階の清掃に配慮、ゴミ収集の容易な位置にゴミ置き場を設置	5.0	0.50					
3 衛生管理業務			-					
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.2</b>	0.30					3.2
2.1 耐震・免震		3.0	0.50					
1 耐震性		3.0	0.80					
2 免震・制振性能		3.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30					
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	ステンレス管等の採用	4.0	0.20					
6 主要設備機器の更新必要間隔	吸収冷温水機、屋内受変電設備の採用	4.0	0.20					

<b>2.4 信頼性</b>			<b>3.8</b>	0.20	-	-	
1	空調・換気設備	耐震対策の実施	4.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	節水器具の採用	4.0	0.20	-	-	
3	電気設備	非常用発電機・電源車接続盤の設置。重要電源設備の最上階設置。	4.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	引込を2事業者用対応。通信機械の上階への設置。	4.0	0.20	-	-	
<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.3</b>	0.30	-	-	3.3
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.2</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高を3.9m以上確保	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	3.0	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	3.0	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	3.5
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	2.0
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		まちなみと調和した建物高さ、壁面位置、外装材や色彩を計画	<b>5.0</b>	0.40	-	-	5.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	3.0
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	3.8
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	4.5
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		庇・ブラインドによる日射遮蔽の実施	<b>4.8</b>	0.20	-	-	4.8
<b>2 自然エネルギー利用</b>		基準階外周部にライトシェルブを設置	<b>4.0</b>	0.10	-	-	4.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>		BEI 非住宅 0.76 住宅(専有部) 0.83	<b>4.7</b>	0.50	-	-	4.7
集合住宅以外の評価(3a.3b)		VVWV、VAV、LED照明等の採用によるエネルギー削減	4.7	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	
<b>4 効率的運用</b>			<b>4.0</b>	0.20	-	-	4.0
集合住宅以外の評価			<b>4.0</b>	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		施設内の用途に応じた電力量、使用水量、ガス量の計量を実施	4.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		季節に応じた施設運転要領の提示	4.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	3.2
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	3.4
<b>1.1 節水</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.7</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		雨水利用の採用	4.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.2</b>	0.60	-	-	3.2
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			3.0	0.10	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.20	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>		-	3.0	0.20	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		-	3.0	0.20	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			3.0	0.10	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		可動間仕切・移動間仕切等のユニット部材を採用	4.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.2</b>	0.20	-	-	3.2
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.3</b>	0.70	-	-	
1 消火剤		ガス消火設備の設置なし	4.0	0.33	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.33	-	-	
3 冷媒			3.0	0.33	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	3.6
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		熱源機器の台数分割による高効率なシステムの運転	<b>5.0</b>	0.33	-	-	5.0
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	3.0
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	3.0
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.33	-	-	
2 振動			3.0	0.33	-	-	
3 悪臭			3.0	0.33	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	